

「参加報告書」

京都大学 経済学研究科 後期博士課程 1年 竹下 伸一

- ① 学習成果：今回訪問したシンガポール企業のトップと日本企業の現地トップに直接行ったインタビューを通じて、過去 60 年余に亘る ASEAN と中国地域に於ける戦略提携関係に対する考え方や取り組み方の同意点や相違点を直に知る事ができるなど現在の研究テーマでの研究活動に活用できるので大変有益だった。やはりアジアの経営者の持つ経営者感覚、実行力、決断力など日本人経営者とは異なる視点をいくつか得る事ができた。特に面談したシンガポール企業トップは中国系であるのでその華僑ネットワークを活用して日本企業のアジア諸国及び中国本土での事業拡大へ大きな貢献を果たした事も良く分かった。また彼等からもアジア経済成長への大きな期待感や事業拡大へ挑む起業家としての熱気を直接感じられ、少子高齢化・低成長継続で閉塞感の伴う日本市場との相違が際立つ事を実感できた。面談日直前に当該企業（世界第 4 位）が米国の同業企業（世界第 5 位）へ買収提案（買収金額は約 1 兆円）を行ったばかりで面談した幹部も緊張感に満ちており、グローバル競争下での急速な世界的業界再編の動きを垣間見る事ができました。今回の調査研究の成果を更に拡張して博士論文作成に向けた初期の成果を果たす事ができ、現地研究者との意見交換の機会創出、現地大学での長期研究活動を含め今後の海外での調査研究の計画作成を進めていきたい。
- ② 海外での経験：1963 年の独立以降 Benevolent Autocrat 体制の下で第二次世界大戦直後の日本と同じ状況を克服し、人口わずか 560 万人の小国ながら ASEAN 諸国の中で最高の経済発展を遂げ（GNI per Capita: シェンガポール 6.0 万 US ドル vs 日本 3.6 万 US ドル）、更に地理的・人工的な制約を逆に活用し今後も知財を活用する持続的経済発展を図るダイナミズムを街中でも充分感じられた。4 年前位に訪れた当時よりも大規模な都市再開発の規模とそれに伴う人種の多様性拡大を図りアジアの金融や情報の結節点としての強みを活かす新たな経済成長モデルの一端を実見できた。地理的制約で水や食料品は全量輸入に頼るので物価は日本より高く、スーパーでの日本食は日本の 3 倍以上の価格になります。トヨタのカローラの価格は輸入税、免許税などが加算され 600 万円にも跳ね上がります。その代わりに、公共料金は安く設定し、地下鉄の初乗りは 100 円位で、国民の約 8 割は公共住宅に暮らしています。個人所得税率は 2007 年度以降、最高 20% という低い税率になっていますが、2016 年度からは最高税率が 22% に引き上げられました。但し、年収が 16 万 S ドルまでは従前と同じ税率となります。グローバリゼーションの影響は ASEAN 地域では顕著であり、アジア研究学徒は現地を定期的に訪問する事でその変化を継続的に行う必要があると感じた。
- ③ プログラム内容：自身で現地での面談の約束を取り、実行したのは自信につながった。また短期間ではあったがなるべく街中での人の動きや都市再開発の現場を観察する中でその経済成長の可能性を肌で感じるようにした。
- ④ 進路への影響：将来の進路についてはこのような ASEAN 地域での現地調査を重ねて行いながら決めていきたい。